と怒った。とうさんも部屋からちょこっと顔を出して、ニッコリしながらVサインをした。

ぼくは階段を駆けおりて、リビングの奥にある事務所のドアをノックした。

「かあさん、陰性だったよ！」

「そう、よかったね。これでゆっくりお風呂に入れるわよ」と、ドアを開けて無表情で言ったかあさんに、ぼくはにっこり笑ってうなずくと、バスタブにお湯を張りに行った。

一時間半も風呂に浸って、鼻歌を歌いながら髪を乾かしていたら、もう一時半になっていた。久々に曜日を気にしてみると、今日は土曜日だった。かまうもんか。

キッチンに行くと、ぼくの分のランチとアイス緑茶がテーブルの上に置いてあった。

ぼくの好きな穴子寿司だ！

リビングでアイロンをかけているかあさんにお礼を言ったら、選んだのは麻だって。びっくりした。麻にお礼のメッセージを送ると、既読になった。

みんなはもう部屋でそれぞれ食べちゃったらしいけど、ぼくはここで食べよう。

ああ、おいしい！　やっぱり穴子寿司は最高だ。

そしてニュースが始まった。またいやな気分になるからチャンネルを替えようとして、手を止めた。

「ついに、ついに、奇跡の治療薬が完成しました！」

司会者が叫んだ。

かあさんがあわててアイロンを置いて飛んできた。

「すごいですね、さすが日本の医薬品開発技術です！　科学リポーターの長瀬さん、ミライクル・ジャパンはこの薬の世界レベルの特許も取得したらしいですね」

「ええ、ミライクル社は三か国の合同出資・合同研究による薬品会社ですから、日本だけの功績ではありませんが、この技術は非常に画期的です」

「いわゆる普通の薬とはちがうようですね？」

司会者はうれしそうな表情で質問した。

「はい、ナノテクノロジーを使っているんです。こういったナノロボットによる治療はすでに先進国で始まっていますが、Z21の治療に効果が証明されたものとしては、世界初です。非常に大きな功績ですよ。具体的には……」

科学リポーターが説明動画を披露した。

つまり、薬というよりロボットだ。溶けるカプセル入りのナノロボが注射されて、医者のリモートコントロールで脳に誘導され、脳の必要な部分だけをピピッと刺激する。磁気や電気による刺激と、化学物質による刺激の両方をいっぺんにやるんだ。

しかも、看護師や看護ロイドが注射したナノロボを、医者が別の場所からリモートコントロールすることもできる。

仕事を終えたナノロボは血液中を流れ続けるけど、無害